

自治体支援で販路拡大スタートアップ！

シンガポール事務所

シンガポールのランドマーク的コンベンション施設の「マリーナベイサンズ」において、日本食品に特化した商談会「Japanese Foods “Premium” Trade Fair in Singapore」が開催されました。

商談会概要

開催日	12月8日・9日
日本からの参加企業（サプライヤー）	44社
取り扱い商品例	果物（梨・リンゴ・柿）、果物加工品（ジャム・ゼリー）、菓子（煎餅・団子）、茶
シンガポール流通企業等（バイヤー）	79社
業種	小売店・レストラン等への食品卸業者がメイン。他にはブライダル・レストラン・通信販売関係など。シンガポール以外の業者も10社程度参加。
主催者	JTB 西日本

この商談会には個別で参加している企業のほか、地元自治体の支援を受けて参加している企業もありました。

福岡県北九州市も地元企業の参加支援を行なっている自治体の一つで、地元企業に参加を呼びかけ、7社が参加しました。参加企業が取り扱う商品はお茶・お菓子・健康食品等で、海外（もしくはシンガポール）初進出の企業がほとんどでしたが、こういった企業にとって、今回の商談は非常に実りが多く、改めて日本市場との違いを感じることができたようです。参加した企業からは以下のような感想が聞かれました。

- ・賞味期限に関する質問が多い。定番商品としてもらうには長い賞味期限が必要であることが分かった。（お菓子）
- ・日本での商品受渡しができるバイヤーもあり、国内取引と同様の手間で海外に商品を送ることができる場合があることが分かった。（お菓子・惣菜）
- ・日本では想定していないような食べ方を提案された。（惣菜）
- ・本来業務用の商品だが、小売り用のパッケージの要望があった。（惣菜）
- ・成分により輸入可否の判断に時間がかかる（健康食品）
- ・輸送費削減のためには現地生産も検討の余地があることが分かった（お菓子）

- ・シンガポールのバイヤーは他の東南アジア各国と違い判断が早い。

商談の成否については各企業により様々ですが、見積依頼やサンプル注文など受けた企業も多く、今後の取引に可能性が感じられる結果となりました。また、今回のバイヤーからの反応は新たな商品造成やプロモーションを検討するきっかけとして、国内では得難い経験となったのではないのでしょうか。

今回、北九州市は市の外郭団体である北九州貿易協会とともに参加企業に対し商談会参加費用や旅費等の補助を行っており、経営体力の少ない中小企業でも多額の出費をせずに海外販路開拓へのチャレンジができることとなりました。また、この補助には中小企業庁の「ふるさと名物応援事業補助金」を利用することにより、市自体の財政的支出を抑える工夫もなされています。

参加企業からも「海外マーケットに接する場の提供に感謝する」「今後もこういった機会を提供してもらいたい」という声が聞かれ、海外進出には自治体による支援が求められていることを感じました。



左：商談会の様子 右：会場奥に設けられた PR ブース（長崎県・琉球銀行・JR 等が出展）

（加藤所長補佐 北九州市派遣）